

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・豪州等で上方修正も、米国、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

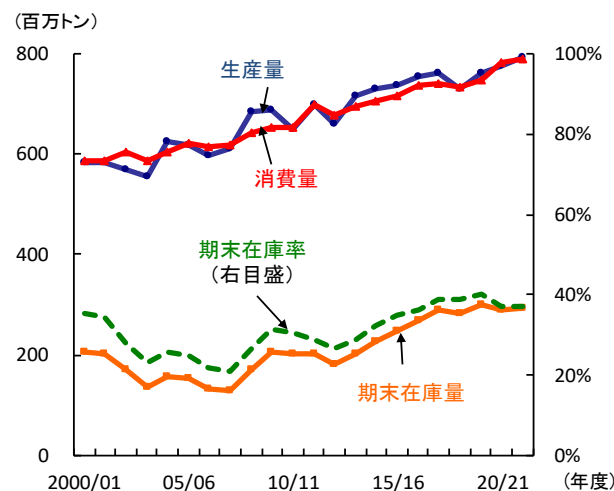
消費量 前年度比 前月比

- ・パキスタン等で上方修正も、ロシア等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国、カナダ等で下方修正も、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：「PS&D」（2021. 7. 12）をもとに農林水産省で作成

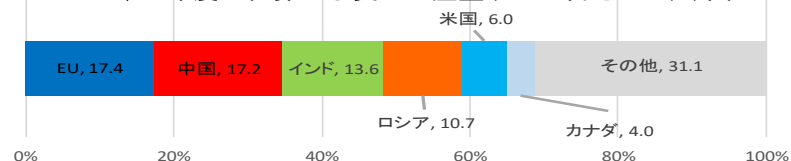
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

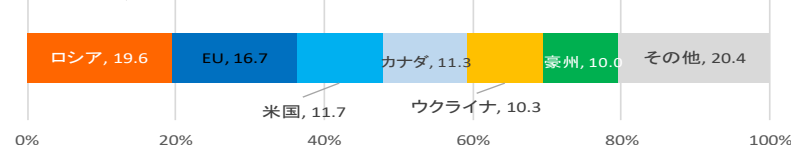
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.5	775.8	792.4	▲ 2.0	2.1
消 費 量	748.3	785.0	790.9	▲ 0.2	0.8
うち飼料用	139.4	158.3	160.6	▲ 0.2	1.4
輸 出 量	195.0	201.4	204.0	0.8	1.3
輸 入 量	187.8	192.4	202.0	2.5	5.0
期末在庫量	299.3	290.2	291.7	▲ 5.1	0.5
期末在庫率	40.0%	37.0%	36.9%	▲ 0.6	▲ 0.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 July 2021)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量(792.4百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量(204.0百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量(202.0百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > プレーンズ北部の高温乾燥の影響で春小麦減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測から4.1百万トン下方修正され、前年度に比べ4.4%減の47.5百万トンの見込み。

同「Crop Production」(2021.7.12)によれば、冬小麦の生産量は、収穫面積の増加と単収の上昇により、37.1百万トンと前年度(31.9百万トン)を16.5%上回る見込み。

また、春小麦の生産量は、プレーンズ北部の干ばつにより、収穫面積が減少し、単収が2002/03年度以降最低となることから、9.4百万トンと、前年度(15.9百万トン)を41%下回る見込み。デュラム小麦も収穫面積の減少と単収の低下から、1.0百万トンと前年度(1.9百万トン)を45.9%下回る見込み。なお、春小麦産地の98%、デュラム小麦産地の95%が、干ばつが継続する地域に含まれ、主要生産地のノースダコタ州の生産量は、前年度に比べ春小麦が41.6%、デュラム小麦が54.8%減少する見込み。

品種別の生産量は、冬小麦のハード・レッド・ウインター(HRW)が前年度より増加し21.9百万トン、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が9.9百万トンと前年度を上回る見込み。また、春小麦はハード・レッド・スプリング(HRS)が、干ばつの影響により前年度より減少し9.4百万トン、デュラム小麦が1.0百万トンと前年度を下回る見込み。

なお、HRWは降雨で単収が上昇したものの、タンパク質が低下した可能性がある。

同「Crop Progress」(2021.7.19)によれば、7月18日時点の冬小麦の収穫進捗率(主要生産18州)は73%と、前年度同期並で、5年平均を上回っている。春小麦は、出穂進捗率(主要6州)が92%と前年度同期の89%を上回り、5年平均並となっている。春小麦の作柄評価は、良～やや良が前週より5ポイント低い11%となり、前年度同期の68%を大きく下回っている。干ばつが継続しているワシントン州やプレーンズ北部のサウスダコタ州の同作柄評価は、それぞれ0%、5%と低い状況になっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、春小麦の干ばつによる生産量予測の減少から、前月予測から0.7百万トン下方修正され、23.8百万トン。

小麦－米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	47.5	▲ 4.1	▲ 4.4
消費量	30.4	30.5	32.5	▲ 0.3	6.8
うち飼料用	2.6	2.7	4.6	▲ 0.3	73.4
輸出量	26.4	27.0	23.8	▲ 0.7	▲ 11.8
輸入量	2.8	2.7	4.0	0.6	47.9
期末在庫量	28.0	23.0	18.1	▲ 2.9	▲ 21.2
期末在庫率	49.3%	40.0%	32.1%	▲ 4.5	▲ 7.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.87	15.42	0.27	3.7
単収(t/ha)	3.47	3.34	3.08	▲ 0.33	▲ 7.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 July 2021)

図 米国小麦生産地帯の干ばつ状況(6月30日及び7月13日)

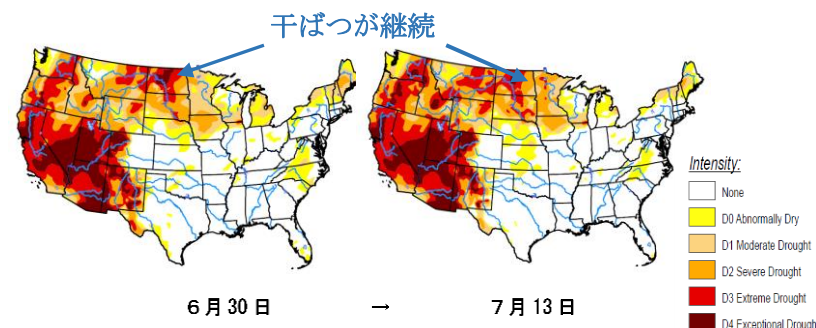


表 米国の小麦輸出国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年6月			2021年1月～6月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
メキシコ	27.5	16.1	メキシコ	187.9	15.0	フィリピン	329.8	13.0
ナイジェリア	23.2	13.6	中国	153.2	12.2	メキシコ	287.3	11.3
フィリピン	22.6	13.3	フィリピン	148.4	11.8	日本	255.6	10.1
日本	16.3	9.5	日本	117.2	9.3	中国	210.3	8.3
韓国	11.5	6.7	韓国	111.5	8.9	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	40.7	その他	536.9	42.8	その他	1,311.9	51.7
合計	170.5	100.0	合計	1255.1	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 6月の輸出検証高は、6月10、17、25、7月1日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～7月1日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年7月19日)より作成。

< カナダ > 作付面積減に加え高温乾燥で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、小麦生産地のカナダ平原三州の大部分で高温、強風、干ばつにより単収が低下することから、2021/22年度の生産量は前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、31.5 百万トンと前年度に比べ 10.5%減少の見込み。

カナダ統計局「Principal Field Crop Areas June 2021」(2021.6.29)によれば、2021/22年度の小麦の作付面積は、菜種等への生産のシフトにより、前年度より 6.5%減少の 9.5 百万ヘクタール。内訳は、春小麦が前年度に比べ 8.1%減少の 6.7 百万ヘクタール、デュラム小麦が同 2.8%減少の 2.2 百万ヘクタール、冬小麦が同 1.4%減少の 0.5 百万ヘクタール。なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.6.18)によれば、意向面積調査をもとにした同年度の生産量は、デュラム小麦が 6.0 百万トン、普通小麦が 25.1 百万トンの計 31.1 百万トンの見込みである。

各州政府の報告によれば、やや良から良の作柄評価は、アルバータ州で 7 月 13 日現在、春小麦が 38.0%(6 月 28 日時点 70.8%)、デュラム小麦が 32.2%(同 48.2%)と熱波と降雨不足から前週より低下した。サスカチュワン州でも、厳しい高温、乾燥天候が続く、7 月 12 日現在の同作柄評価は、冬小麦が 35%(2 週間前 46%)、春小麦が 25%(同 58%)、デュラム小麦が 25%(同 45%)と低下。今後十分な降雨がなければ、高温・乾燥の継続により単収が減少するとみられている。マニトバ州では高温で通常より穀物の生長が早まる一方で、土壌水分量が減少している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正等から、前月に比べ 0.5 百万トン下方修正され、23.0 百万トンの見込み。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021 年 5 月の輸出量は、普通小麦が 179.2 万トンで、中国(24.1%)、インドネシア(14.3%)の順。デュラム小麦は 54.3 万トンで、モロッコ(24.7%)、アルジェリア(23.5%)の順。2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 5 月の輸出量は普通小麦が 1,674.3 万トンで、中国(15.7%)、インドネシア(11.1%)。デュラム小麦が 536.4 万トンで、イタリア(25.7%)、モロッコ(19.9%)の順。

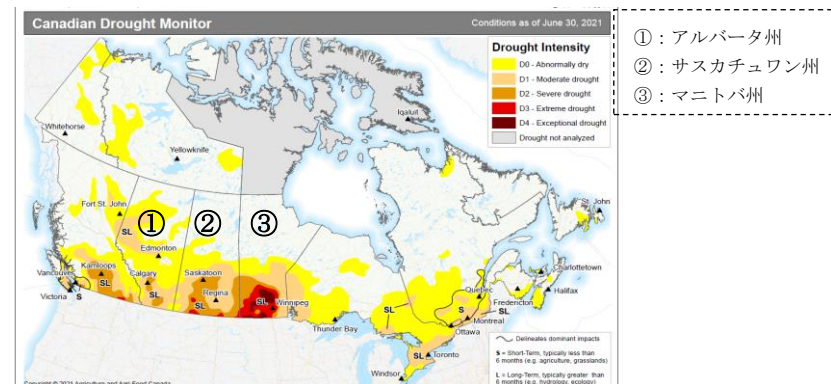
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	31.5 (31.1)	▲ 0.5	▲ 10.5
消費量	9.3	9.9	9.2 (8.9)	-	▲ 7.1
うち飼料用	4.2	4.7	4.0 (4.5)	-	▲ 14.9
輸 出 量	24.6	27.5	23.0 (21.9)	▲ 0.5	▲ 16.4
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.1)	-	27.3
期末在庫量	5.5	3.8	3.8 (5.1)	-	-
期末在庫率	16.2%	10.2%	11.9% (16.4%)	0.2	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (9.22)	-	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	3.42 (3.37)	▲ 0.06	▲ 2.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 June 2021)

図 カナダの平原三州の干ばつ状況（6 月 30 日現在）



資料：AAFC 「Canadian Drought Monitor」(2021. 6. 30)

写真：サスカチュワン州の小麦圃場(6 月 30 日)



春小麦の圃場。
降雨が必要とされているが、現在のところ、生育への影響は深刻な状態ではない。

< 豪州 > 降雨に恵まれ、初期生育は良好

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積は減少するものの、単収が上昇することから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、28.5百万トンの見込み。特に小麦生産地帯の西オーストラリア州（WA州）とニューサウスウェールズ州（NSW州）で、作付け前と6月に十分な降雨に恵まれ、発芽と苗立ちは良好となり、6月26日現在、良好な生育状態となっており、単収が平均値を上回っている。

7月上旬も生産地域で降雨に恵まれ生長が促進され、7月8日付けの3ヶ月予測でも、ほとんどの生産地域で8月から10月にかけて平均以上の降雨となる見通し。

一方、豪州農業資源経済科学局（ABARES）「Australian Crop Report」(2021.6.8)によれば、2021/22年度の実生産量は前年度から17%減少し27.8百万トンとなるものの、2020/21年度までの10年平均を上回ると見込まれている。このうち、主要生産州別の生産量は、WA州では、前年度から5%増加し、過去5年平均を17%上回る10.0百万トンの見込み。NSW州では、生産量は前年度より3%減少するものの、過去5年平均を42%上回る8.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出価格は、輸出余力が十分なことと天候が良好で2021/22年度産の生育が順調なことから前月より低下した。

2021/22年度の輸出量は、豊作が見込まれることから、前月予測から0.5百万トン上方修正され20.5百万トンの見込み。生産量が減少する米国、カナダの輸出量の低下に伴い、特にアジアのホワイト小麦市場で豪州産の需要が高まる可能性がある。

豪州統計局によれば、2021年5月の輸出量は266万トンと4月の249万トンを上回った。輸出先国は、インドネシア(17%)、ベトナム(16%)、ケニア(8%)の順。

現地情報会社によれば、例年になく多くの豪州産小麦がアフリカや中東地域に輸出されているが、その要因はとうもろこし価格の高騰と豪州産小麦の価格下落とみられている。豪州にとって、豊作であった2020/21年度の実小麦輸出の好機となっている。

小麦－豪州（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.5	33.0	28.5 (29.3)	1.5	▲ 13.6	
消費量	8.0	8.5	8.0 (7.8)	-	▲ 5.9	
うち飼料用	4.5	5.0	4.5 (4.2)	-	▲ 10.0	
輸 出 量	9.1	23.0	20.5 (19.4)	0.5	▲ 10.9	
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	2.7	4.4	4.6 (5.9)	-	4.6	
期末在庫率	15.6%	13.9%	16.1% (21.6%)	▲ 0.3	2.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10 (13.1)	▲ 0.10	0.8	
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.18 (2.14)	0.13	▲ 14.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)

IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

写真 豪州のデュラム小麦の圃場(2021年6月30日)



ニューサウスウェールズ州コリアンバリー近郊のデュラム小麦。
この地域ではこれまでの6週間で
平年以上の降雨量があった。
このため、土壌水分量が飽和状態に
あることを懸念する生産者も出始
めているが、7月4日の週から乾燥
天候となる見通しのため、過剰な土
壌水分量は問題とならない見通し。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年5月			2021年1月～5月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
インドネシア	45.8	17.2	インドネシア	247.2	20.0
ベトナム	42.3	15.9	ベトナム	157.9	12.7
ケニア	21.8	8.2	フィリピン	84.9	6.9
フィリピン	17.7	6.6	タイ	71.1	5.7
南アフリカ	16.1	6.0	中国	59.6	4.8
その他	122.5	46.0	その他	618.3	49.9
合計	266.2	100.0	合計	1,239.0	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > 生育は順調もフランス等で降雨による収穫に遅れ

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.6.24)によれば、2021/22年度の生産量(EU27)は、前月予測から0.4百万トン下方修正され、134.6百万トンの見込み。また、農業市場情報システム(AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.7.8)によれば、英国の2021/22年度の普通小麦の生産量は前月予測からの変更は無く、14.5百万トンの見込み。

品種別の生産量(EU27)は、普通小麦が前月に比べ、ポーランド、リトアニア等で下方修正されたものの、フランス、ルーマニア等で上方修正され、126.8百万トンと前年度を13.7%上回る見込み。一方、デュラム小麦は、ギリシャ等で下方修正されたものの、イタリア、フランス等で上方修正され、7.8百万トンと同8.2%上回る見込み。

各国の生育状況は、6月上旬、フランス、ドイツ、英国等の欧州北西部では温暖な天候となり、小麦の成熟が進んだものの、同月中旬以降、継続的な降雨となり乾燥が必要な収穫に向けて懸念が生じた。なお、7月中旬、ドイツ等で洪水が発生したが生産地には影響はなかった模様。また、スペイン、ポルトガル等では5月から乾燥が続いたが、スペインでは降雨により乾燥が一時緩和され、作物へ影響はない模様。

「FranceAgriMer」(2021.7.12)によれば、主要生産国であるフランスの収穫進捗率は普通小麦が4%、デュラム小麦が40%とそれぞれ前年度の42%と75%を下回っている。また、生育状況の良～やや良の割合は、普通小麦が76%、デュラム小麦が66%とそれぞれ前年度の55%、62%を上回っており、生育状況は良好である。

【貿易情報・その他】USDAによれば2021/22年度の輸出量は、輸出余力の増加により、前月から1.0百万トン上方修正され34.7百万トンの見込み。

EU委員会によれば、2020年7月～2021年4月までの輸出量は、普通小麦が前年同期を25.5%下回る2,302.9万トン、デュラム小麦が同48.9%下回る56.7万トン。

なお、2021年4月の輸出先国は、普通小麦が、エジプト(23.3%)、アルジェリア(18.4%)、デュラム小麦は、チュニジア(38.1%)、アルジェリア(21.3%)の順。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.3	135.6	153.0	(141.1)	1.4	12.8
消費量	122.7	117.6	123.9	(104.4)	0.5	5.4
うち飼料用	53.3	48.1	53.2	(41.0)	0.5	10.6
輸 出 量	41.4	31.2	34.7	(26.2)	1.0	11.4
輸 入 量	7.3	8.4	7.8	(6.4)	▲ 0.4	▲ 7.1
期末在庫量	15.3	10.5	12.7	(10.6)	▲ 0.8	20.9
期末在庫率	9.3%	7.1%	8.0%	(8.1%)	▲ 0.1	0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	26.16	24.47	25.71	(24.12)	0.08	5.1
単収(t/ha)	5.90	5.54	5.95	(5.64)	0.01	7.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
IGC 「World Agricultural Production」(12 July 2021) 表内のデータはEU27+英国
「Grain Market Report」(24 June 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

写真 フランス、イル・ド・フランス地域の小麦(食用)圃場(2021年7月8日)



開花が終了し、実が膨らみ始めており、穂を潰すとミルク状の白い液体が出てくる。小麦の丈は160cmに達しており、穂の密度が高く、粒も大きく、生長は良好である。

本年度は、冷害・雨不足が発生しなかったことから、収穫量は例年以上が見込まれる。また、この圃場では、約6年周期で輪作を実施しており、本年は例年と比較しても、土壌の状態が良好だった。

現在、病気や害虫の懸念はない。

表 EUの普通小麦輸出先国(2021年4月、2020年7月～2021年4月、2019年7月～2020年6月)

	2021年4月			2020年7月～2021年4月			2019年7月～2020年6月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	エジプト	50.4	23.3	アルジェリア	503.2	21.9	アルジェリア	607.1	16.9
2	アルジェリア	39.9	18.4	モロッコ	224.0	9.7	サウジアラビア	335.6	9.4
3	モロッコ	37.9	17.5	ナイジェリア	191.7	8.3	モロッコ	263.2	7.3
4	ナイジェリア	11.3	5.2	中国	177.3	7.7	エジプト	229.4	6.4
5	サウジアラビア	11.0	5.1	サウジアラビア	169.8	7.4	中国	222.0	6.2
6	その他	66.0	30.5	その他	1,036.9	45.0	その他	1,932.1	53.8
計		216.6	100.0		2,302.9	100.0		3,589.5	100.0

資料：欧州委員会「EU Cereals export and import」(2021.6.17)をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.7.5)によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 136.4 百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が前年度比 1.4%増の 128.6 百万トン、春小麦が同 4.9%増の 7.8 百万トン。

同年度の冬小麦は、6 月 22 日時点で 20.9 百万ヘクタールの収穫が終了している。各小麦産地の状況から、同年度の小麦生産量は史上最高になると見込まれている。

中国中央气象台(2021.7.9)によれば、冬小麦は、山西省、河北省、山東省、四川省等で収穫が終了し、陝西省、寧夏自治区等の大部分で収穫が終了。また、春小麦は、東北部の黒竜江省等で開花期、甘粛省等で乳熟期から成熟期に入っている。なお、7 月中～下旬の河南省の洪水については、収穫が終了しており影響はない模様。

7 月 7 日現在の春小麦の作柄評価は、一、二類苗(※)の比率が 39%、59%となり、前月(40%、60%)に比べ、一類、二類苗とも 1 ポイント低下した。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(5 月)によれば、5 月中・下旬以降の新穀小麦の供給の開始で国内市場における小麦の供給量は充分となり、前年比でやや高いものの、中国国内の卸売価格は全体的に安定した。新穀小麦については、国内市場での買付意欲が高く、価格も上昇したが、今後の新穀小麦の供給量増加で価格は安定する見込み。なお、依然として、とうもろこし価格は小麦価格より高い。

中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の実消費量、輸入量とも前月予測からの変更はなく、それぞれ対前年度比 1.17%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.26%減少の 36.0 百万トン)、同 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 5 月の小麦輸入量は前年同時期(230.9 百万トン)の 98.9%増の 459.2 万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(27.8%)、豪州(27.1%)、米国(26.2%)の順となっている。なお、1 月から 5 月の輸入先国の推移は、4 月から米国が増加傾向、フランスが同期間を通じて減少傾向、豪州は 3 月にかけて大きく減少したものの、4、5 月と増加している。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	136.0	(130.2)	-	1.3
消 費 量	126.0	150.0	148.0	(132.0)	-	▲ 1.3
うち飼料用	19.0	40.0	35.0	(21.0)	-	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	0.8	1.0	(1.3)	-	25.0
輸 入 量	5.4	10.5	10.0	(7.9)	-	▲ 4.8
期末在庫量	151.7	145.6	142.6	(139.8)	-	▲ 2.1
期末在庫率	119.4%	96.6%	95.7%	(104.9%)	-	▲ 0.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.00	(23.8)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.91	(5.71)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

(百万トン) 中国の小麦輸入先国の推移(2021年1月～同年5月)

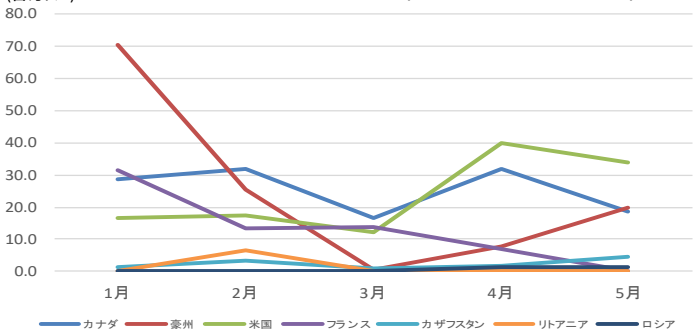


表 中国の小麦輸入先国(2021年5月、2021年1月～2021年5月、2020年1月～2020年12月)

	2021年5月			2021年1月～2021年5月			2020年1月～2020年12月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	34.1	43.4	カナダ	127.5	27.8	フランス	238.3	29.2
2	豪州	20.0	25.5	豪州	124.5	27.1	カナダ	229.7	28.2
3	カナダ	18.6	23.7	米国	120.3	26.2	米国	178.4	21.9
4	カザフスタン	4.5	5.8	フランス	65.4	14.2	豪州	109.0	13.4
5	ロシア	1.3	1.7	カザフスタン	12.0	2.6	リトアニア	33.3	4.1
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.4	カザフスタン	19.2	2.4
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	2.9	0.6	ロシア	7.2	0.9
計		78.5	100.0		459.2	100.0		815.2	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

＜ ロシア ＞ 2 年連続豊作の見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測に比べ 1.0 百万トン下方修正され、前年度に比べ 0.4%減少の 85.0 百万トンの見込み。

品種別の内訳は、冬小麦は単収が上昇するものの、収穫面積の減少から、前月予測に比べ 0.5 百万トン下方修正され 64.0 百万トン、春小麦は収穫面積が増加するものの、単収が低下することから、同 0.5 百万トン下方修正され、21.0 百万トンの見込み。

冬小麦は、北カフカス連邦管区や南連邦管区で 5 月下旬から 6 月初旬にかけて、降雨に恵まれ単収が上昇した。一方、中央管区や沿ボルガ連邦管区で 2 月下旬から 3 月上旬に急激な気温上昇後、気温低下から土壌水分が再凍結したことで、小麦が枯死し、収穫面積が減少した。また、春小麦は、枯死した冬小麦に代わり春小麦を再作付したことで収穫面積が増加したものの、6 月の中央管区での高温・乾燥天候により単収が下方修正された。なお、ロシア連邦統計庁(2021.6.30)によれば、冬小麦を含む冬穀物の枯死面積は 96.4 万ヘクタールと前年度(14.4 万ヘクタール)を大きく上回った。

ロシア農業省によれば、2021/22 年度の小麦生産量(6 月 8 日時点)は 81.0 百万トンの見込み。また、ロシア国営分析機関「農業分析センター」植物栽培局長によれば、ロシアの穀物生産量は 2020/21 年度に及ばないものの、過去 5 年間で上回る予想である。同局長は、種子、農機、肥料、栽培技術の改良を近年の豊作の要因としている。

ロシア気象センターによれば、作柄評価は、ロシア・ヨーロッパ部の北部及び南部地域とも、概ね良好及び並であるが、一部で土壌水分不足となっている。また、ロシア・アジア部でも概ね作柄は良好である。

【貿易情報・その他】ロシア税関統計によれば、2020/21 年度(2020 年 7 月～2021 年 6 月)の 7 月から 5 月の輸出量は 3,581.0 万トンと前年度に比べ 6.0%増加している。

輸出先国は、エジプト(22.1%)、トルコ(18.1%)、バングラデシュ(4.8%)の順。

なお、7 月 14 ～20 日の可変輸出関税額は、国際穀物価格の上昇により 6 月当初の 28.1 ドル/トンから上昇し、39.3 ドル/トンとなっている。

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	73.6	85.4	85.0	(83.5)	▲ 1.0	▲ 0.4
消 費 量	34.5	38.5	42.5	(42.9)	▲ 0.5	10.4
うち飼料用	17.0	19.0	19.0	(18.7)	▲ 0.5	-
輸 出 量	34.5	38.5	40.0	(38.9)	-	3.9
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.3)	-	11.1
期末在庫量	7.2	12.0	15.0	(11.0)	▲ 0.4	24.9
期末在庫率	10.5%	15.6%	18.2%	(13.4%)	▲ 0.5	2.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	29.00	(28.7)	▲ 0.30	1.1
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.93	(2.84)	▲ 0.01	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

図 ロシアの小麦輸出量の推移(月別)

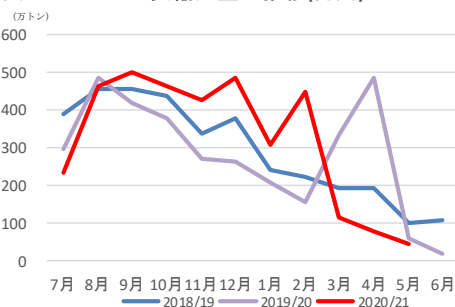


表 可変輸出関税額(小麦)

期間	関税額
2021.06.02-06.08	28.1ドル/トン
2021.06.09-06.15	29.4ドル/トン
2021.06.16-06.22	33.3ドル/トン
2021.06.23-06.29	38.1ドル/トン
2021.06.30-07.06	41.3ドル/トン
2021.07.07-07.13	41.2ドル/トン
2021.07.14-07.20	39.3ドル/トン

輸出通関の前週の市況(ノヴォロシスクの平均FOB価格)が200ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に70%の関税がかかる。

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年5月、2020年7月～2021年5月、2019年7月～2020年6月)

	2021年5月		2020年7月～2021年5月		2019年7月～2020年6月	
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シエ ア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シエ ア (%)
1	非公表	26.9	58.8	エジプト	791.2	22.1
2	ナイジェリア	6.9	15.1	トルコ	648.1	18.1
3	カザフスタン	3.7	8.0	バングラデシュ	173.4	4.8
4	リビア	3.0	6.6	不明	162.4	4.5
5	アルメニア	1.7	3.7	パキスタン	157.0	4.4
6	その他	3.5	7.8	その他	1,649.0	46.0
計		45.7	100.0		3,581.0	100.0

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成
(注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、ロシアで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

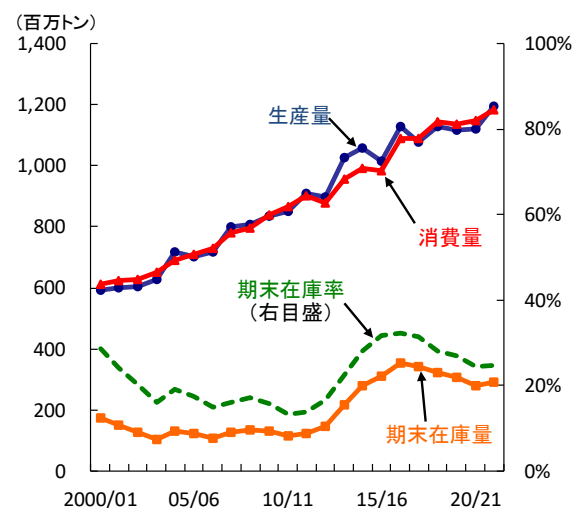
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU等で下方修正も、米国、メキシコ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・メキシコで下方修正も、米国、ロシアで上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2021.7.12)をもとに農林水産省にて作成

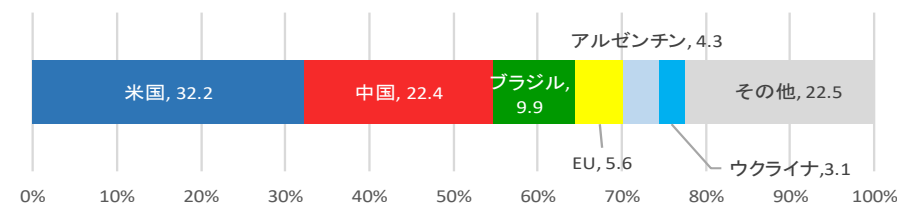
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

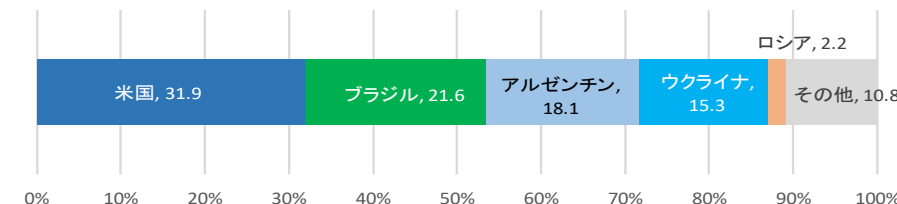
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,117.6	1,120.7	1,194.8	5.0	6.6
消 費 量	1,134.7	1,146.3	1,183.5	2.4	3.2
うち飼料用	715.8	727.3	747.6	▲ 0.7	2.8
輸 出 量	172.4	183.1	198.8	1.4	8.6
輸 入 量	167.6	182.2	187.7	▲ 1.8	3.0
期末在庫量	305.5	279.9	291.2	1.8	4.0
期末在庫率	26.9%	24.4%	24.6%	0.1	0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 July 2021)

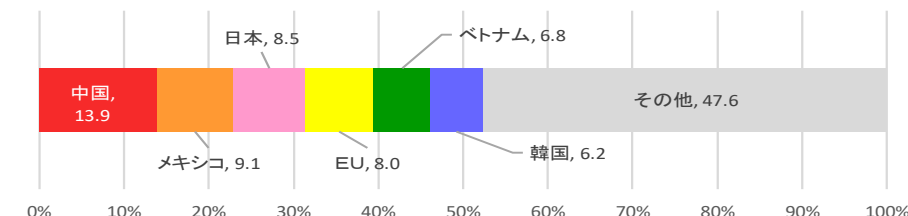
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,194.8百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(198.8百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(187.7百万トン)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増で増産も輸出は減少見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、「作付面積調査」（2021.6.30）による収穫面積の上方修正に伴い、前月予測から4.4百万トン上方修正され、前年度より6.9%増の385.2百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」（2021.7.19）によれば、主要18州におけるシルキング進捗率は56%と、前年度同期（55%）及び過去5年平均（52%）より進んでいる。ドウ進捗率は、8%と前年度同期（8%）と並び、過去5年平均（7%）より進んでいる。作柄評価は、コーンベルト北西部の5月から6月上旬の高温乾燥の影響により、良からやや良が65%と前年度同期（69%）を下回っている。7月中旬現在、受粉期を迎えているが、受粉期の高温乾燥の継続に注意が必要。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、とうもろこし及び飼料価格上昇にも関わらず、2021年3月～5月期の畜産向け需要が旺盛であったことから、前月予測から飼料用需要が0.6百万トン上方修正され、前年度並みとなり、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することで、燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要の増加により、前年度より1.2%増の313.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正及びブラジルの2020/21年度の生産量・輸出量の下方修正による輸出競争力の減退に伴い、前月予測から1.3百万トン上方修正されたものの、主にアルゼンチン、ウクライナ等との激しい輸出競争により前年度より12.3%減の63.5百万トンの見込み。

なお、USDAによれば、輸出検証高（2021年1月7日～7月1日）は、43.0百万トンであり、内訳は中国（12.4百万トン）、日本（8.0百万トン）、メキシコ（8.0百万トン）、韓国（3.1百万トン）の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、供給量の増加が需要量の増加を上回るため、前月予測から1.9百万トン上方修正され、前年度より32.4%増の36.4百万トンの見込み。しかし、期末在庫率は9.6%で依然として低水準の見込み。

とうもろこしー米国

（単位：百万トン）

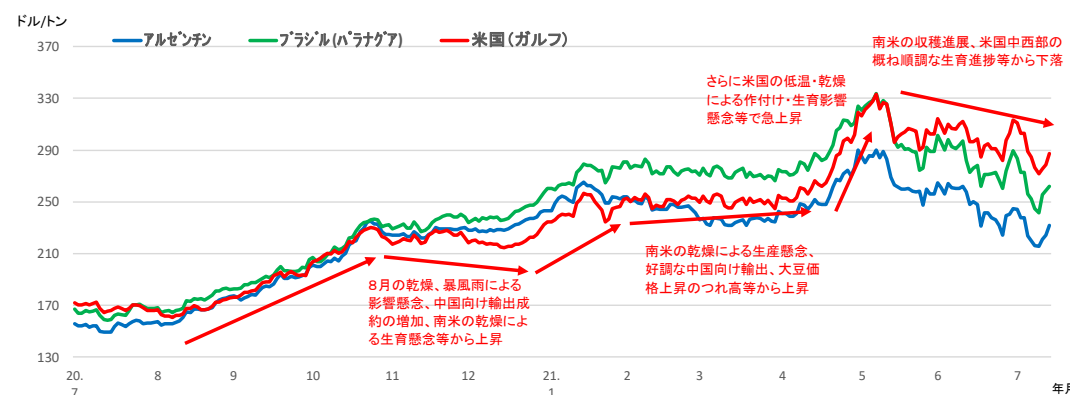
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.0	360.3	385.2	4.4	6.9
消費量	309.6	309.8	313.5	0.6	1.2
うち飼料用	149.8	145.4	145.4	0.6	-
エタノール用等	123.4	128.3	132.1	-	3.0
輸出量	45.1	72.4	63.5	1.3	▲ 12.3
輸入量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	27.5	36.4	1.9	32.4
期末在庫率	13.7%	7.2%	9.6%	0.5	2.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	34.19	0.40	2.5
単収(t/ha)	10.51	10.79	11.27	-	4.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 July 2021）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2020/21 年度冬とうもろこし生産見直し下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 26.9%増の 118.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.7.8)によれば、2020/21 年度の実産量が終了した夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響により、前年度比 3.0%減の 24.9 百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、成熟期を迎えた冬とうもろこしの生産量は、4 月～5 月の南部の主産地での長引く乾燥天候に加え、6 月末のパラナ州等南部の州の霜害の影響による単収の下方修正により、前月予測から 3.2 百万トン下方修正され、前年度比 11.0%減の 68.5 百万トンが見込まれる。合計では前年度比 9.0%減の 93.4 百万トンの見込み。(P.21 大豆—ブラジルのクロープカレンダー参照)。

2020/21 年度について、冬とうもろこしの主産地である中西部のマトグロッソ州では、7 月 16 日現在で収穫率は 52%となり、過去 5 年平均より 16 ポイント遅れている。冬とうもろこしは例年 6～8 月に収穫されるが、大豆の収穫遅れに伴う作付けの遅れにより収穫作業も遅延している。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 6.6%増の 73.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より 53.6%増の 43.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の実輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から 5.0 百万トン下方修正され、28.0 百万トンの見込み。一方、輸入量は 1.7 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021 年 1～6 月の輸出量は 3.6 百万トンで、前年同期と比べ 12.6%増となっている。内訳は、1 位がエジプトで 78 万トン、2 位がイランで 51 万トン、3 位がベトナムで 50 万トンとなっている。

とうもろこし—ブラジル

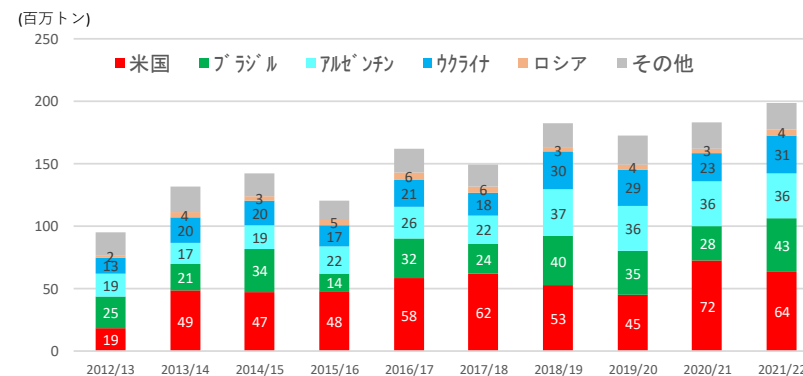
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが 3/4 を占め、夏とうもろこしは 1/4)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	93.0	118.0 (117.4)	—	26.9
消 費 量	68.5	68.5	73.0 (76.2)	—	6.6
うち飼料用	58.5	58.5	62.0 (55.7)	—	6.0
輸 出 量	35.2	28.0	43.0 (40.0)	—	53.6
輸 入 量	1.7	3.5	1.7 (0.5)	—	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	5.2	8.9 (6.0)	—	70.7
期末在庫率	5.0%	5.4%	7.7% (5.2%)	—	2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.50	19.88	20.80 (20.06)	—	4.6
単収(t/ha)	5.51	4.68	5.67 (5.85)	—	21.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」 (2021. 7. 12) のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 5.2%増の 51.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の生産量は、収穫面積及び単収の上方修正により前月予測から 1.5 百万トン上方修正され、48.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.7.15）によれば、2020/21 年度の収穫進捗率は 62%で、過去 5 年平均に比べ 5 ポイント遅れている。遅播きの単収が予想を上回り、生産量は 48.0 百万トンの見込み。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加等により前年度より 1.4%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～5 月の輸出量は 13.3 百万トンで、前年同期（15.5 百万トン）より 13.7%減。内訳は、1 位がベトナム 2.6 百万トン、2 位がエジプト 1.6 百万トン、3 位がマレーシア 1.3 百万トン。引き続き、パラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生 産 量	51.0	48.5	51.0 (59.3)	-	5.2	
消 費 量	13.5	14.5	14.5 (22.2)	-	-	
うち飼料用	9.5	10.5	10.5 (17.3)	-	-	
輸 出 量	36.3	35.5	36.0 (35.5)	-	1.4	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (5.9)	-	24.1	
期末在庫率	7.3%	4.2%	5.2% (10.2%)	-	1.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.20	6.25 (7.85)	-	0.8	
単収(t/ha)	8.10	7.82	8.16 (7.56)	-	4.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の風景
(7月2日撮影)



< 中国 > 収穫面積増で増産見通したが、飼料用需要も増加

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、価格高騰と政府の増産政策による収穫面積の増加から前年度より2.8%増の268.0百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.7.9)によれば、7月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは6月の気温が例年より低く、一部の生育がやや遅れたものの、おおむね七葉期から節間伸長期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは6月の播種期の好天に恵まれ、三葉期から七葉期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、ASF発生の影響も残るものの、養豚数の回復とレストランの食品残渣や低品質の飼料でまかなっていた小規模畜産経営から大規模経営に移行したことからとうもろこしを主原料に切り替えたため、飼料用消費量が増加し、前年度より1.7%増の294.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～5月の輸入量は11.7百万トンで、前年同期の4.2倍となり、前年の年間輸入量に匹敵する数量。内訳は、米国産6.7百万トン(57%)、ウクライナ産5.0百万トン(43%)で、前年同期はウクライナ産が94%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報5月号」によると、5月の国内流通価格は、黒竜江省等東北地区のとうもろこし生産地は春耕の繁忙期に入っており、とうもろこしの売買は低調で、かつ穀物販売業者の売り惜しみ意向が高く、2,980元/トンと上昇した。一方、5月の外国産価格も、ブラジルの減産予想による国際価格の上昇に伴い、大幅に上昇したことから、内外価格差は縮小した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

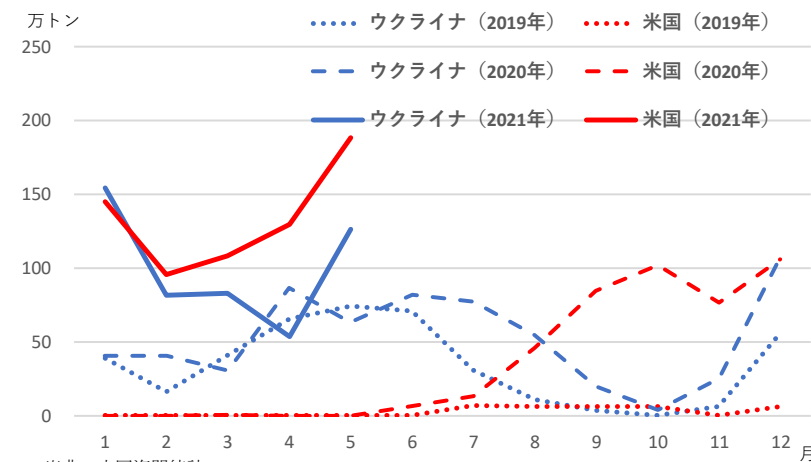
とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.8	260.7	268.0 (272.8)	-	2.8
消費量	278.0	289.0	294.0 (299.2)	-	1.7
うち飼料用	193.0	206.0	211.0 (194.0)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	26.0	26.0 (18.0)	-	-
期末在庫量	200.5	198.2	198.2 (182.1)	-	▲ 0.0
期末在庫率	72.1%	68.6%	67.4% (60.8%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.38 (6.36)	-	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2021)
IGC 「Grain Market Report」(24 June 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分